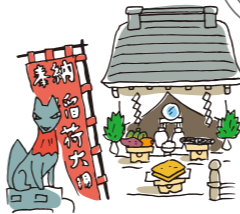


## 多摩のくらし～歳時記 ～初午～



平成26年(2014)の干支である甲午(きのえうま)は、十二支を組み合わせて六十周期とする干支の一つで、激動の年や革新の年の意味合いがあります。前回の甲午年である昭和29年(1954)は日本の高度成長が始まった年です。甲は木の若葉を懐(いだ)く相(すがた)から、万物萌動を意味し、十二支の午は時刻では昼、方角は南と、暖や陽を象徴します。天を翔ける馬が易の根本を背に印示してきた説話といえます。

初午は二月最初の午の日を指します。この日を縁日とする全国各地の稲荷神社で祭礼が賑やかに行われます。本年は2月4日が初午で、豊作、息災、長寿、栄進、商売繁盛などのご利益を願って、数多くの方が参詣します。なかでも三大稲荷といわれる伏見、豊川、笠間をはじめ、全国で三万余といわれる稲荷神社に集まる人々には、境内の杉の枝に四手を飾った「験(しるし)の杉」を持ち帰る習わしがあるようです。古くは和銅4年(711)

に伏見稲荷の祭神、倉稲魂神の降臨が起源といわれています。稲荷と狐の結びつきは、実りの神の化身と考えられたためとも、食物の神、御食津神(みけつのかみ)と狐(古くは「きつ」といった音の類似)によるといわれます。他にも、仏教とともにインドから伝わったバラモン教の荼枳尼天(稲の神)が狐に乗っていることに由来するともいわれ、諸説あるようです。

初午の馬は古來人の移動や農耕を支えた絆に、春夏秋冬折々の祭礼で午の吉祥、作物豊穰が祈られて、人々の生活には大変重要でありました。お稲荷さんは、ご利益が大きいかわりに、華やかなことが好きだとのこと、初午の祭の杜の飾りつけは、幕(紺色)を張り、正面にお玉(鏡)、左右に常灯をつけ、左右に櫛を飾ります。また中央に神酒(左右)と供物、左に山の幸、右に海の幸、そして下段には油揚げをお供えします。(川口キン)

## たま今昔

区制が敷かれてから40年以上を経た多摩区の昔の姿を探ります

### その11 南武線



多摩区ふるさと写真集より 中野島駅近辺を走る新型233系電車が走る  
撮影：川島常雄氏

南武線の川崎・立川間が全線開業したのは、1929年(昭和4年)のことです。最初が多摩川の砂利運搬が主な目的でしたが、その後、京浜工業地帯の工場群が沿線に進出し、利用が増えました。全線26駅中16駅が川崎市内にあり、そのうち4駅は多摩区内です。今までは都心の山手線などで走っていた中古電車で走り、ようやく今年から南武線用に新造されたピカピカの新車(233系電車)が走るようになりました。今までの電車はジャカルタに行くという話です。写真は中野島駅に進入する40年前の旧型電車と現在の最新車両です。右手にあった工場は高層マンションになっています。[文：児井正臣]

編集後記

向ヶ丘遊園駅の連絡通路、長尾台のコミュニティバス、さらには南武線の新型車両、このところ多摩区の交通インフラが段々と良くなってきています。今号はそれらのニュースをお伝えできました。私たちの生活がより便利に、快適になるような記事を今後も続けられれば良いと思っています。(児井)

■まち協のホームページ <http://tamaku-machikyoo.com/>

## たまの顔

川崎河川漁業協同組合長  
井口文夫さん

「多摩川の水が、ずいぶんきれいになったでしょう。アユをはじめ色々な魚がもどってきました。最近ではサケも見かけます」と、幼い頃から多摩川と過ごしてきた井口さんは嬉しそうに話しておられました。多摩川における資源(魚、貝や環境)を見守って、17年間も川崎河川漁業協同組合長(代表理事)として多摩川を愛してこられました。

「魚の種類や数が豊富(35種類)になってきたが、面倒なものも増えてきました。それはカワウヤや外来魚です」と。「区民はもとより市民にとって、多摩川がより身近になり、憩いの場所になるようにこれからも多摩川と付き合っていきたい」と、その口調は82歳にはとても見えず、かくしゃくとされていました。



多摩川と共に生活してきた井口さん

なお、今年度の多摩区まちづくり協議会の「まちカツ！」(平成27年2月11日)で、多摩川と地域とのつながりについて講演をしていただく予定です。[取材：本多]

多摩区まちづくり協議会へのご意見、ご質問、プロジェクトへの参加申し込みはこちらへお願いします。

【事務局】〒214-8570  
多摩区役所地域振興課まちづくり推進係  
電話 935-3148 FAX 935-3391  
メール 71tisin@city.kawasaki.jp



多摩区まちづくり協議会は、区民の自主的なまちづくり活動組織です。区民が取り組む地域活動を、年4回発行でお知らせしています。

# 私たちのまちづくり

多摩区まちづくり協議会 NEWS 2014年(平成26年)12月

46号



多摩の風景

## 向ヶ丘遊園駅の南北が結ばれた日

[取材：鈴木]

平成26年10月30日(木)。この日、私たち多摩区の住民にとって、念願の連絡通路が完成しました。

向ヶ丘遊園という駅に抱く住民のイメージは、南と北で生活が分断してしまっている、駅の対面に渡るのが不便である、などではないでしょうか。南口方面に住む方からしてみると、多摩区役所や郵便局へのアクセスは不便ですし、北口方面に住む方からしてみると、生田緑地や岡本太郎美術館、大学などの行き来も不便だったのでは。

また、向ヶ丘遊園駅といえば昭和41年から平成13年までの35年間、多摩区の顔ともいえる小田急向ヶ丘遊園モノレール線も思い浮かびます。遊園地、モノレールが無くなってからの10数年間で、南と北でそれぞれ少し不便さを感じながらの生活スタイルが、いつの間にかできあがってしまっていたのかもしれない。

しかし、今回の連絡通路の開通により、地域住民同士のつながりや商店街同士のつながりが新たに構築されていきかけとなり、仕事帰りや休日に、自分たちの住む地域で家族とレジャーや食事、買い物をもっと楽しむことができたり、踏切が解消されたことによって、子育てファミリーやお年寄りの方が、より安心して移動できるようになりました。



交通：向ヶ丘遊園駅から 徒歩30秒

活動



多摩区商店街連合会の安配会長

向ヶ丘遊園の連絡通路開通は、駅周辺でお店をされている方々にとっても、明るいニュースでした。「ふたつの地域」と言ってもいいほど「開かずの踏切」で分断されていた人の流れが、ようやく変わろうとしています。反対側へ行くのに、今までは少し足が遠のいていたかもしれませんが、商店街は皆様をお待ちしております!

# 多摩区まちづくり協議会 まちづくり TOPICS

多摩区まちづくり協議会が内外で行っている  
さまざまな活動の紹介や、身近なまちの情報  
などを、トピックス仕立てでお届けします！

【まち協ホームページ】  
<http://tamaku-machikyo.com/>

## Project マグネット多摩 記事 葛生

9月30日(火)、多摩区役所においてマグネット多摩が運営する「チラシ・ギャラリー」(前号参照)の概要について多摩区内の活動団体の皆さまを対象に説明会を開催しました。11の団体の参加があり、また活発な質疑応答もありました。同サイトの公開に向け準備を進めており、より多くの市民活動団体の参加をお待ちします。



チラシ・ギャラリーの説明会を実施

## 運行開始! 長尾台 コミュニティバス 記事 鈴木

12月13日(土)、7年越しの長尾台コミュニティバス「あじさい号」の運行が始まりました。戸数数百の長尾台の小さな住宅地と、久地駅または登戸駅との間を、平日は朝6時台から夜22時台まで、1時間に1〜3本、採算性を維持しつつバスを走らせます。当日は長尾山妙楽寺(通称あじさい寺)にて市長や川崎フロンタレのふろん太君も参加した出発式を行いました。長尾こども太鼓が勇壮なメロディを奏でる中、多くの住民や関係者に見送られ第1便が出発しました。

いよいよ始動!



あじさい寺で記念写真

## 多摩区の 子育て団体!

## 多摩区子育てサロン 「ママとあそぼうパパもね」 記事 古川

多摩区の公立保育園と民生委員主任児童委員が協力して開催している子育てサロンです。区内4地区でこども文化センター、すかいきずなどを利用し、地区ごとに毎月1回、年10回開催しています。乳幼児と保護者が、気軽に集って安心して遊べる場があることで、お母さん同士の仲間作りのきっかけにもなっています。保育士が子育ての悩みや相談にのったり、お誕生会やいろいろな遊びをしています。参加費、事前申し込み不要です。



大勢の親子が集まります

## 第37回 多摩区民祭に出展 記事 渡部



エコスタイルのブース

10月18日(土)、「多摩区民祭」が、8万人の来場者を集め、盛大に行われました。「多摩エコスタイル」としては、「1日1エコ運動をひろめよう!」と題し、

現在実行している、または、これから実行したいエコな取り組みを、来場者にポストイトへ書いていただき、専用ボードに貼りつけていただきました。節電、節水、ゴミ分別、LED、ソーラーパネルにコンポスト、いろんなエコ活動でボードは埋め尽くされました。

さまざまなエコの形



## Project たまむすび New! 記事 田代

新プロジェクト「たまむすび〜あそび場支援プラットフォーム〜」(略称たまむすび)が、11月から活動を開始しました。こどもの外あそびの支援、シニアの地域デビューの支援を主なテーマとしています。このような企画・実施・支援をしている個人、団体や行政とのコラボ検討会や、世代間交流のイベントを通してネットワークを形成し、情報の共有、相互協力、連携活動をしていきます。その他、子ども達の生活や未活動のシニアの実態調査、人材バンクづくり、更には遊べる空間を広げる活動も行う予定です。



多世代が集まって活動します!

## 「多摩の居場所ふらっと」 その後の活動 記事 河崎

11月8日(土)、川崎市緑化センターで「第5回川崎市緑化センターまつり」が行われました。今年は約7,000人が訪れたそのにぎやかな一角に、「多摩の居場所ふらっと」の元メンバーで構成される「みんなでふらっと」主催の「割り箸鉄砲」のコーナーがありました。小学生たちは輪ゴムを使って真剣な表情で手作りのキットを組み立てていました。完成するやいなや、我先に的に向かって輪ゴムを発射。当たった商品は持ち帰ることができます。100本用意されたキットは午前中ではほぼなくなるほどの人気でした。子どもたちは鉄砲が大好き!



※世代間交流の場づくりを進めたまち協の旧プロジェクト

## 多摩区の活動団体紹介! ながさわ魅力伝え隊 記事 田代

「私たちの長沢の町をもっと盛り上げていこう!」と、住民を中心に2014年夏に結成されました。町の魅力を伝えるために、「長沢ゼミ」の開催や、「つながる新聞」の発行をしています。「子供も大人も一緒に楽しめる笑顔のまちづくり」を目指し、長沢商店会や専修大学徳田ゼミナール、長沢まちづくり協議会、地域団体との連携により、さまざまな人をつなげ、魅力ある長沢をどんどん伝えていきます。



魅力伝え隊のみなさん

## 多摩★まち大学 平成26年度視察研修会 「立川市大山自治会に観る コミュニティ再生術!」

秋晴れの11月14日(金)、バス満席の参加者41名で東京都立川市大山団地に行きました。90分間にわたり、佐藤良子自治会長から「自治会加入率100%」「孤独死ゼロ」などへの道のりをお伺いすることができました。さらに自治会保険、自治会葬儀、終焉ノート、技術者の人材バンク、自治会ビジネス(ゴミ袋販売、駐車場管理、公園清掃、ものづくり〜物品販売)など、目からウロコが目いっぱいでした。午後は「くにたち はたけんぼ」を訪問。東京都国立市の新しい農園で、田んぼ体験、企業団体向け貸し農園、ポニー乗馬、森の幼稚園、国際交流などを通して、都市農業のパイオニアを目指していました。



立川市の大山団地へ



会長の佐藤良子さん



団地製グッズをお土産に



国立市のはたけんぼ



代表の小野淳さん



農家+市民+国立市  
新しい農を実践してます

## 「こんふお〜る」が 菅にオープン 記事 井上

多摩区菅に、誰でもふらっと気軽に立ち寄れる場がコンセプトのコミュニティカフェ「こんふお〜る」がオープンしました(平成26年3月28日)。多摩区まちづくり協議会の旧プロジェクト「多摩の居場所ふらっと」のメンバーがスタッフとして運営にあたり、地域に根付くよう頑張っています。



気軽に立ち寄れる素敵なカフェ

## まち協のイベント情報 (2月)

### まちづくり 活動発表会 「まちカツ!」

区内の活発な市民活動を知り、参加者同士が交流できる年1回のイベント「まちカツ!」(まちづくり活動発表会)を今年度も開催!まち協の活動報告に加え、多摩川がテーマの講演会、20団体以上によるポスターセッションなども要注目です!

【日時】2月11日(水・祝)13時~16時半  
【場所】多摩区総合庁舎11階  
【内容】講演会(講師:川崎河川漁業協同組合 井口文夫氏)、多摩区まちづくり協議会の活動発表、ポスターセッション、交流会など  
【申込】不要(参加無料)

※ イベントの内容は変更になる場合があります。